



## 熊本市 感染症発生動向調査 速報

### ● 侵襲性肺炎球菌感染症(全数報告、5類感染症)

肺炎球菌による侵襲性感染症のうち、この菌が髄液または血液から検出された感染症のことをいいます。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、敗血症などが特に問題とされており、小児および高齢者を中心に報告があります。

#### ◆ どんな病気？

肺炎球菌は、小児の鼻咽頭に常在していることが多い菌で、中耳炎や肺炎の原因菌にもなっています。肺炎球菌による感染症として菌血症や髄膜炎などの侵襲性感染症がありますが、保菌者の全てが発症するわけではなく、小児では無症状のまま鼻咽頭に保菌している場合が多いとされています。ただし、抵抗力の低下や、粘膜バリアの損傷などにより、菌が体内に侵入すると侵襲性感染症などの発症となります。

肺炎球菌による感染症としては、髄膜炎、菌血症・敗血症、肺炎、中耳炎などさまざまですが、特に乳幼児においては髄膜炎や菌血症などの侵襲性感染症があります。

症状は小児と成人で異なります。

・症状…小児…発熱を初期症状とした菌血症が多くみられます。肺炎を伴いません。髄膜炎は、中耳炎に続いて発症することがあります。

成人…発熱、咳、痰、息切れを初期症状とした菌血症がみられ、肺炎を伴うことが多いです。髄膜炎の場合、頭痛、発熱、けいれん等の症状が現れます。

・感染経路…患者のくしゃみなどのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染です。

・潜伏期間…不明 ・流行期…通年



#### ◆ かつたらどうすればいいの？

・抗菌剤が有効ですが、近年耐性菌も多く報告されています。

#### ◆ 予防法は？

・ワクチンの接種が有効です。小児用では「プレベナー」成人用では「ニューモバックス」が接種可能です。詳しくはかかりつけの医師にご相談ください。

侵襲性肺炎球菌感染症報告件数(全数報告5類感染症)2017年11月19日現在

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
熊本市	12	21	16	12	23
熊本県	17	28	24	20	37
全国	1001	1825	2355	2736	2730

期 間		平成29年 45週		平成29年 46週	
		11/6～11/12		11/13～11/19(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		6	0.24	10	0.40
RSウイルス感染症		5	0.31	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)		9	0.56	16	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		30	1.88	27	1.69
感染性胃腸炎		88	5.50	70	4.38
水痘(みずぼうそう)		5	0.31	6	0.38
手足口病		18	1.13	10	0.63
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		8	0.50	9	0.56
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	3	0.19
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		3	0.19	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		17	3.40	13	2.60
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		2	0.40	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00